

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	地域在宅看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2階、3階
担 当 教 員	柏原 弘子	実務経験と その関連資格	看護師 病院,施設等で19年勤務 教育機関で勤務			
《科目目標》						
1) 在宅で療養する神経難病事例についてICFの視点を重視し、目標達成思考で看護過程が展開できる。 2) 状況設定に応じた援助計画を立案し模擬実践ができる。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】訪問マナー演習(5%)授業態度(5%)と実習・演習(30%)、課題(50%)、小テスト(10%)を含め合計100点満点で評価。 但し、課題提出遅れや授業中の私語、積極性や協同性の欠如が見られた場合は減点とする。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
1) 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 2) ナーシンググラフィカ 23巻 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア メディカ出版 3) ナーシンググラフィカ 24巻 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
①事前・事後学習を行い授業に出席する。課題提出は必須。 ②Teamsに送られる、資料、伝達は各自で必ず確認する。 ③提出物は、クラス単位で回収し指定した時間を守り提出する。 ④主体的な学習姿勢で取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
①既習学習のICFの概念について理解する。 ②技術演習では基礎看護技術(日常生活援助・診療の補助)、暮らしの中の援助(生活ケア・医療的ケア)で 学習した援助を活用し、状況設定に応じた援助を考え模擬実践する。 ③グループワークや意見交換は時間を有効に主体的な学習姿勢で臨む。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える社会資源(医療・福祉用具)を知る			慢性期医療展において 見学した内容をまとめ指定された日時に提出する。
		各コマにおける授業予定	・在宅で利用する医療・福祉用具と保健適応 移動・移乗・体位変換、排泄・清潔・寝具、嚥下食・経管栄養(胃瘻)、服薬管理、吸入・吸引、呼吸器(HOT・NPPV・TPPV)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える社会資源(医療・福祉用具)を知る			慢性期医療展において 見学した内容をまとめ指定された日時に提出する。
		各コマにおける授業予定	・在宅で利用する医療・福祉用具と保健適応 移動・移乗・体位変換、排泄・清潔・寝具、嚥下食・経管栄養(胃瘻)、服薬管理、吸入・吸引、呼吸器(HOT・NPPV・TPPV)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える未来の福祉を考える			「フクシてん」のディベート大会に参加。
		各コマにおける授業予定	・「未来の福祉を支えていくために必要なもの」をテーマに、 ①資金(お金)、②思いやり(愛)③制度・テクノロジー(仕組み)④人材(人)についてディベート大会に参加準備			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える未来の福祉を考える			「フクシてん」のディベート大会に参加。
		各コマにおける授業予定	・「未来の福祉を支えていくために必要なもの」をテーマに、 ①資金(お金)、②思いやり(愛)③制度・テクノロジー(仕組み)④人材(人)についてディベート大会に参加			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	地域創生の実際を考える			いきてゆくフェスの担当 ブースの企画運営
		各コマにおける授業予定	豊中市“いきてゆくフェス2025”に参画する			
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	地域創生の実際を考える			いきてゆくフェスの担当 ブースの企画運営 終了後学び・感想を提出
		各コマにおける授業予定	豊中市“いきてゆくフェス2025”に参画する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護看護論実習Ⅱの準備ができる	iPad 動画視聴 訪問マナーの 援助計画	テキスト2)のP21～26の図から読み取れることを考える。
		各コマにおける授業予定	・地図アプリで目的地を探し行ってみよう～ ・自転車の交通ルールを守る ・訪問看護をイメージし、訪問初回時のマナー援助計画立案(20分) ・地域に住む人々を理解しよう GW10分 人口構造の変換 死亡数の将来推計 世帯構造の変化などから 「これから求められる在宅看護」についてグループ討議 10分 発表10G×1分=10分		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護看護論実習Ⅱの準備ができる ALS疾患の理解を深め、必要な看護を考える	テキスト1) iPad	訪問時マナー援助計画を立案し演習に参加
		各コマにおける授業予定	・訪問時のマナー援助計画立案の実施 1G5分×10G ・ALSの解剖生理、病態の理解、検査、治療、看護の学習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報の整理・分析・解釈までの思考過程が理解できる	テキスト1) iPad	次回授業時朝 フェイスシート アセスメントシート アセスメントシート提出
		各コマにおける授業予定	・フェイスシートに必要な基本情報を収集 ・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)で情報を整理し、アセスメント ・療養者・家族の望みと療養上の課題を把握	フェイスシート アセスメントシート	
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の情報整理・分析・解釈ができる ※個人ワーク	テキスト1) iPad	
		各コマにおける授業予定	・関連図で全体像の把握と問題を考える ・4側面(身体、心理、環境・生活上、家族介護状況)	関連図	
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の情報整理・分析・解釈ができる ※個人ワーク	テキスト1) iPad	次回授業時朝 に関連図を提出
		各コマにおける授業予定	55歳ALSの全体像を把握し関連図で問題を明確にする	関連図	
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人への援助と家族支援の計画が立案できる ※個人ワーク	テキスト1) iPad 援助計画 訪問記録	授業終了後 援助計画を提出 次回演習までに家にある もので工夫をひとつ作成
		各コマにおける授業予定	・療養者、家族の健康管理の援助計画を立案する ①VSと症状観察 ②呼吸:気管切開、人工呼吸器管理 ③栄養:PEG管理 ・療養者、家族の生活援助の援助計画を立案する ①清潔:全身清拭 ②清潔:洗髪 ③清潔:陰部洗浄 ④排泄:浣腸・排便(排便を促す工夫) ⑤活動:体位変換(安楽な体位の工夫) ⑥文字盤を用いたコミュニケーション } 家にあるもので工夫をひとつ作成 ・受け持ち療養者訪問記録の訪問目標を記載する		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人への援助と家族支援の援助計画が立案できる ※グループワーク	テキスト1) iPad	授業終了後 援助計画提出
		各コマにおける授業予定	・療養者、家族の健康管理と生活援助の援助計画をグループで共有し それぞれ追加・修正する(30分) ・次の発表にむけて実践練習(60分)	援助計画	
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人への援助と家族支援を模擬実践できる	テキスト1) iPad	
		各コマにおける授業予定	・グループ毎に生活援助計画に基づき模擬実践し動画を撮影する。一人10分×6=60分 ・実践してみて改善点について意見交換する	援助計画	
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経難病事例の状況設定に応じた本人と家族支援の実践を評価できる ※個人ワーク	援助計画	授業終了後 援助計画(SOAP)提出 訪問記録提出
		各コマにおける授業予定	・小テスト ・各自動画を視聴し自分の実践を振り返る援助計画のSOAPを記載 次回訪問時の改善や工夫点を明確にする ・受け持ち療養者(訪問記録)の訪問の実際と考察を考え記録する	訪問記録	